

名古屋市民芸術祭'98主催事業
名古屋二期会オペラ定期公演

室内オペラ

浅茅ヶ宿

上田秋成原作「雨月物語」

円地文子歌舞伎用台本より
オペラ用台本・作曲／増本伎共子

日時：11月17日(火) 18：30開演
18日(水) 18：30開演
19日(木) 14：00開演
18：30開演

会場：名古屋能楽堂（名城）

主 催

名古屋市民芸術祭実行委員会、名古屋市、名古屋市教育委員会、
(財)名古屋市文化振興事業団、名古屋二期会

ごあいさつ

名古屋二期会理事長

牧 定忠

名古屋二期会におきましては、今回名古屋市民芸術祭'98として増本伎共子作曲になる室内オペラ「浅茅ヶ宿」を上演いたしましたところ、かくも多数の皆様をお迎えできましたことを心から御礼申し上げます。

この室内オペラ「浅茅ヶ宿」は、十八世紀江戸時代上田秋成作の怪異小説集「雨月物語」中の一篇で、円地文子が歌舞伎用に台本化したものを、作曲者増本伎共子が室内オペラ用の台本を作り、異色のオペラ作品として完成させたものです。

名古屋二期会でこの作品を上演いたしますのは、1989年10月に名古屋市民芸術劇場'89《市制100周年記念》として熱田神宮能楽殿で、翌々年3月には水戸芸術会館1周年記念公演として、水戸芸術館コンサートホールATMにおいて上演されたものに続き3回目になりますが、今回は指揮に黒岩英臣、演出に初演以来この作品の演出を担当しております観世榮夫といった豪華スタッフにより、室内楽はそれぞれ第一級の方々、名古屋二期会も有力メンバーを揃えて上演の有終の美を飾りたいと期しております。

平成9年に開館した、能楽堂としては有数の設備を誇るこの名古屋能楽堂で上演できますことも、このオペラの成功に大きく寄与いたしますことと存じます。

どうか皆様のご声援の程お願いいたします。

名古屋市民芸術祭実行委員会会長

財団法人名古屋市文化振興事業団理事長

栗田 大六

このたび、名古屋市民芸術祭'98主催事業として、名古屋二期会の皆様によります室内オペラ「浅茅ヶ宿」が開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

名古屋二期会は、1970年の発足以来、オペラへの人々の関心を高め、また人材育成にも多大な成果をあげておられます。その意欲的な活動に対し、深く敬意を表するところでございます。

市民芸術祭'98は、10月から11月までの2か月にわたって、70事業を市内各地で多彩に開催いたします。

本日の公演は、初演以来、「能」の様式で「雨月物語」の世界を表現する斬新なオペラとして高い評価を受けている作品で、きっと皆様にご満足いただけるものと存じます。

終わりに、本公演の開催にご尽力いただきました関係者の皆様に心から感謝を申し上げますとともに、本公演のご成功を祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。

総監督◎牧 定忠

指揮◎黒岩英臣

演出◎観世榮夫

17日・19日昼

18日・19日夜

出 演

宮 木	山口 雅子	山本みよ子
勝四郎	石川 保	鳴海 卓
大将村越	大野 憲一	奥村 晃平
神官児玉	水谷 和樹 (4公演とも)	
その娘みすず	坪内 教子	澤田 昂英
村 長	佐藤 秀和 (4公演とも)	
老人佐久平	安田 治	加賀 誠二
その娘しのぶ	日笠 美枝	津田 文子
語り手	貞平 純子	松村彩容子
神官の従者	黒田 泰男 (4公演とも)	
勝四郎の従者藤吾	伊藤 雅康 (4公演とも)	
村の男・山賊 1	富田 敏夫	向川原慎一
村の男・山賊 2	森重 雅夫 (4公演とも)	
村の男・山賊 3	宮崎 嘉夫 (4公演とも)	
村の女 1	佐藤 信子	佐藤栄里子
村の女 2	今橋満里子	杉浦 千春
村の女 3	加藤 晴子	武田 美保

演 奏

フルート／寺本義明 ハープ／神谷朝子
ヴァイオリン／小尾佳正 コントラバス／古橋由基夫
打楽器／野々垣行恵・奥田育子

合 唱

Sop : 佐藤 信子・佐藤栄里子・川口 喜江・福田華奈子
Mez : 今橋満里子・杉浦 千春・武田 美保・伴 靖子
Alt : 加藤 晴子・関谷美奈子・石田 佳江・船木 京子
Ten1 : 伊藤 高潤・伊藤 雅康・三ッ松 平・向川原慎一
Ten2 : 木村 真治・森重 雅夫
Br : 黒田 泰男・津川 秀夫・弘瀬 嘉夫
Bs : 科野 輝蔵・富田 敏夫・宮崎 嘉夫

スタッフ

照 明	石原 福雄	副指揮	山田 信芳
音 響	山田 真久		吉川 朗
衣 裳	坂 治栄		河津 政實
舞台監督	太田けんじ	練習ピアノ	水野 みか
演出助手	池山奈都子		西尾 由希
	藤田六郎兵衛		
メイク	加藤都希子	宣伝美術	いながきしおり
かつら	神田かつら店		
舞台監督助手	井上 知也	制作補佐	米浜 光代
	近藤 朋文	制 作	名古屋二期会
	山田 ゆか		
	辻 千晶		
	服部 基子		

プロフィール



黒岩英臣

1942年東京に生まれる。1960年桐朋学園大学指揮科入学、故斎藤秀夫氏に師事した。在学中は同大学オーケストラを指揮する他、ヴィオラ奏者、ピアノ奏者としても活動した。

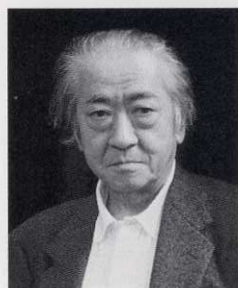
1964年、同大学弦楽オーケストラのアメリカ公演に指揮者として同行。1965年同大学卒業、NHKテレビ「今年のホープ」に出演。同年、修道士となり1975年まで修道生活を送った。その間、神学、哲学、ラテン語、グレゴリアン、ポリフォニーを学び、典礼音楽の指揮、作曲を行う。

1976年より再び音楽に専念し、1977年1月都響ファミリーコンサートの演奏では、「久方ぶりに現れた、優れた資質をしかと感じさせる新人」と絶賛され、一躍脚光を浴びた。

1978年夏には、パークシャー・ミュージック・センターにクーセヴィツキー記念フェロシップ・コンダクターとして参加。

関西フィル、札幌、名古屋フィル、九響等の定期演奏会をはじめ、全国主要オーケストラを指揮し、安定した評価を得ている。自らが敬虔なキリスト教徒ということから、宗教音楽に造詣が深く、情熱的な音楽創りが評価されている。

1981年9月から1988年まで九州交響楽団常任指揮者、1985年8月から1989年まで神奈川フィル常任指揮者、1988年4月から1994年3月まで関西フィルの常任指揮者を務めた。



観世榮夫

東京都出身。能の伝統ある家柄に生まれ、3歳で初舞台。祖父の観世華雪・父の観世雅雪について能の修業。12歳で初シテを勤める。

22歳のとき喜多流のメソッドを学ぶために、それまでの慣習を破って喜多流に移籍。喜多実に師事。

31歳で能界を離脱。青年芸術劇場（青芸）・自由劇場の旗揚げに参加。オペラ・演劇・舞踊・歌舞伎などの演出や俳優として活動。

51歳で能に復帰して能の役者・演出家と多彩な活動を続けている。海外における演劇のシンポジウムや能の公演には幾度も参加し国際的な活躍をしている。

社団法人銕仙会理事長 京都造形芸術大学教授

第48回芸術選奨文部大臣賞 「山本安英の会」記念賞 モービル音楽賞を受賞

主な能 翁 道成寺 安宅勸進帳 石橋 鷲 木賊 砧 求塚 恋重荷 卒塔婆小町 鸚鵡小町 乱 桧垣 ほか

演出作品 遠くまでいくんだ 絵姿女房 乞食の歌 修善寺物語 袴垂れはどこだ セチュアンの善人 テーバイへ向かう七将 オイディプース王 山月記 鷹の井戸 カーリユリバー 日本三大伝統芸能欧州公演「俊寛」 彦市ばなし 額田王 子午線の祀り ほか

あらすじ

第一場

応仁の乱の直前の関東地方。下総国葛飾郡真間の里に勝四郎という男がいた。この男は自分の代になって家が傾きかけたことを口惜しく思い、人に勧められて絹商いで京で一儲けしようと考えた。彼には美人の妻、宮木がおり、これは元、遊女をしていたのを勝四郎に見染められたのだが、たいへん気だてもよく貞淑な女である。彼女は夫のこうした地道でない心根を諫めるのだが、彼はきき入れず、とうとう京への出発前夜、という処からこの劇が始まる。遅く帰宅した夫は、宮木の用意した酒に上機嫌で、彼女に美しい一卷の反物をくれる。妻は、この反物を小袖に仕立てて、夫の帰宅まで貞淑に操を貫いてこの家の留守を守ると約束する。

第二場

勝四郎が発った後、真間の里は戦乱に巻きこまれかける。上杉家と仲違いして敗れた鎌倉方の兵が総州へ逃げこんだというのだ。上杉方は総州の各地に火を放つ。宮木の居る真間にも上杉勢が攻めこんで来たが、その軍団の長、村越が、たまたま宮木の昔の恋人とわかり、村長は宮木にこの大将と一夜を共にするよう頼みにくる。そうすれば、真間を兵火に滅ぼす事を免ずるとの条件で。宮木は村人達のたつての頼みに断り切れず、村越を招くが、彼と二人きりになった時、自分の命と引きかえに、この村を救ってくれと頼む。宮木の強い決意と勝四郎への操を通す心に動かされた村越は、村を救うことを約束して去っていく。

第三・四場

一方、京の商いの帰途、木曾の山中で山賊に襲われて、財産も供の者も失ってしまった勝四郎は、やむなく、命の恩人である近江国の神官の家に身を寄せている。この家の娘みすずは、いつしか勝四郎に心を寄せ、彼と結婚したいと一途に考えている。その気持を知って、この結婚の前途を神に伺った神官の児玉は、その御託宣の中に、女の嘆き悲しむ声をきく。勝四郎はこの話を児玉にきかされて、居てもたってもいられず、早々に近江を発って真間に向かう。

第五場

勝四郎が真間に帰ってみると、家は廃屋同然になっていたが、中では砧の音がし、燈もちらつき、宮木も無事であった。彼女は勝四郎が発つ時くれた反物で仕立てた小袖を着、あでやかに迎える。二人は七年ぶりに、積る話をしながら一夜をすごす。

第六場

暁方に勝四郎が寒さに目を覚ますと、彼は屋外に寝ており、彼の前には妻の墓があった。墓には妻の辞世の歌が木片に書かれて立っていた。宮木は、戦乱の最中もずっと家を離れず、勝四郎の帰りを待っていたが、遂に今から五年程前の夏にこの世を去ったという。前の晩、勝四郎が会ったのは、一筋に操を貫いて彼を待ち続けていた宮木の魂だったのである。

(増本伎共子)

17日・19日昼

出 演

18日・19日夜



山口 雅子

宮 木

国立音楽大学声楽科卒業後、東京にて、ミュージカル、NHKテレビ、各種コンサートに出演。その後、名古屋にて、「ドン・ジョヴァンニ」「テレフォン」「浅茅ヶ宿」「ラ・ボエム」「フィガロの結婚」他、数多くのオペラに出演。近年、「ピンピーネ」創作オペラ「民吉」「天国と地獄」などのヒロインを務め好評を得る。その他、ジョイント・リサイタル、第九、メサイヤ、戴冠ミサなどのソリストとしても幅広く活躍中である。現在、名古屋二期会会員。



山本みよ子

宮 木

東京芸術大学卒業。名古屋二期会のプリマとして「蝶々夫人」「カルメン」等25演目以上のオペラに主演。最近では「藤戸」の女をブルガリア・ドイツ(フライブルグ・ケルン・デュッセルドルフ)で主演の他、奈良西大寺で「BUDDHA GITA」亡霊3役を初演。幅広いレパートリーを持ちオーケストラとの共演、TV・FM出演も数多い。

愛知県芸術文化選奨文化賞、名古屋市芸術奨励賞受賞。名古屋音楽大学助教授。名古屋二期会会員。日本演奏連盟会員。オペラアンサンブル「歌暦」主宰。



石川 保

勝四郎

愛知県立芸術大学声楽科卒業。名古屋二期会会員。

二期会公演のオペラ、「奥様女中」「ヘンゼルとグレーテル」「魔笛」「フィガロの結婚」その他に出演。「フーゴ・ヴォルフ歌曲連続演奏会」出演。名フィル定期演奏200回特別記念公演「トリスタンとイゾルデ」出演。「名フィルと歌うNTTコンサート」では数年にわたり合唱指導にあたる。混声合唱団コール・ブルンネン常任指揮者。



鳴海 卓

勝四郎

北海道室蘭市出身。洞谷吉男氏に声楽を師事。オペラ出演は数多く、特に日本の創作オペラ普及に尽力。主な主演作品は尾上和彦作「真理の人」(仏陀)。92年全米オペラ協会の招きによる「藤戸の浦」(盛綱役)では演技と一体となった歌唱と絶賛される。

第九回国民文化祭みえ主催、錦かよ作品「賛のうたげ」(平治役)。93年名古屋市芸術祭主催事業「能とオペラによる藤戸の物語」で主演。名古屋オペラグループ事務局長、'98年施設運営委員、NHK文化センター講師。名古屋青年合唱団・コール東海常任指揮者。



大野 憲一

大村村越

愛知教育大学卒業。

名古屋二期会副理事長、安城音楽協会副理事長、愛知県文化協会会員、NHK合唱コンクール審査員、県立東浦高校教諭、愛知学院大学グリークラブ技術顧問兼常任指揮者、安城第九をうたう会顧問、安城市民合唱団常任指揮者、反核日本の音楽家会員。

オペラ、コンサート、合唱ソロ、合唱指揮、指導、若手声楽家の育成、音楽文化の普及活動、音楽団体のリーダーとしての運営活動、音楽教育、とその音楽活動は多彩である。



奥村 晃平

大村村越

愛知県立芸術大大学院修了。ウィーン国立音楽大学卒業。同大学特別生修了。ウィーン・シェンブルン歌劇場にてオペラ「フィガロの結婚」の伯爵、ブラームスザール等コンサート出演。83年帰国後、オペラ「道化師」「ラ・ボエム」「フィガロの結婚」「ジャンニ・スキッキ」「浅茅ヶ宿」などに主演し、好評を得る。リサイタルは名古屋市民芸術祭'94「美しき水車小屋の娘」「白鳥の歌」「冬の旅」など15回開催。

日本歌曲コンクール第2位。ウィーンでの声楽コンクール第2位。現在、名古屋音楽大学講師。名古屋二期会副理事長。新・波の会会員。日本演奏連盟会員。全日本学生音楽コンクール審査員。



坪内 教子

みすず

京都外国語大学ドイツ語学科卒業。名古屋二期会研究生を経て、現在に到る。

谷上節子、移川澄也の両氏に師事。

研究生修了オペラ「パステイアンとパステイエンヌ」のバステイエンヌ。二期会「フレッシュコンサート」「日本歌曲の夕べ」に出演。



澤田 昂英

みすず

武庫川女子大学声学科卒業。(故)花輪洋、(故)木下保、田中千恵子、中山第一、(故)A・バランドーニ、加藤典子、(故)木下武久、三宅春恵の各氏に師事した。ブラームス、シューマン、シューベルト、メンデルスゾーン、の連続歌曲コンサートシリーズ等の他、ニューイヤーパーオペラコンサートには「ファルスタッフ」や「コジ・ファン・トゥッテ」またオペラ「ヘンゼルとグレーテル」のグレーテル、「天国と地獄」のヴィーナス役等で出演。「浅茅ヶ宿」の後、「イル・トロヴァトーレ」のレオノーラでニューイヤーパーオペラコンサートに出演の予定。

17日・19日昼

出 演

18日・19日夜



安田 治
老人佐久平

富山大学工学部生産機械工学科卒。
声楽を森川紀博、広江吉信、移川澄也各氏に師事。
名古屋二期会フレッシュコンサート等出演。
今回の「浅茅ヶ宿」が初舞台となる。
名古屋二期会準会員。



加賀 誠二
老人佐久平

東京音楽大学声楽科に学び、同大学オペラ科に合格。イタリアのミラノ音楽院に留学する。東京二期会合唱団員として、数々のオペラに出演。オペラ「ラ・ボエーム」においてバルビニョール役を、メノッティのオペラ「助けて！助けて！宇宙人がやってきた」において用務員役を、また歌劇「狐の嫁入り」においてパン狐を演じる。
声楽を加藤智・栗林義信・岡山廣幸・Domenica Versaciの各氏に師事。



日笠 美枝
しのぶ

愛知県立芸術大学音楽学部声楽科卒業。同大学大学院修了。桑原賞受賞。'89-'91年ロータリー奨学生としてA・ボイト音楽学院(伊)に留学。第28回フランシスコ・ヴィニャス国際声楽コンクール2位(スペイン)他、イタリア、日本での入賞入選多数。日本演奏連盟賞、中日賞、平成4年度読売新人音楽賞受賞。NHK洋楽オーディション合格。オペラ、ソロリサイタル、コンサート、宗教曲ソロ、出演。

名古屋音楽学校講師。名古屋二期会会員。



津田 文子
しのぶ

桜丘高等学校音楽科卒業。フェリス女学院短期大学音楽科卒業。同専攻科修了。二期会公演「ヘンゼルとグレーテル」ヘンゼル役、「ヴォーカルコンサート」「日本歌曲の夕べ」「歌曲連続演奏会」(モーツァルト、シューマン、シューベルト、ブラームス)ニューイヤー・オペラ・コンサート、サマーガラコンサート等オペラ、コンサートに出演。他オペラ「藤戸」ブルガリア公演に出演。

名古屋二期会会員。「オペラアンサンブル歌暦」所属。コール三好丘、コール保見、合唱指導者。



貞平 純子
語り手

大阪教育大学特設音楽課程声楽科卒業。同校専攻科修了。リサイタルはじめ全国主要都市での各種コンサート、「ヘンゼルとグレーテル」「バスティアンとバスティエヌ」等のオペラに数多く出演。チェコ、オーストリア(ウィーン市長より感謝状を受く)、イタリアでの日本歌曲紹介やカナダオタワ合唱団との国際交流と長年にわたり幅広い音楽活動が続けている。

名古屋二期会、ANET各会員。日本のうたを歌う会代表。「桜ヶ丘少年少女合唱団」「ベルソーニャコール」「ヴォーチェアミーチ」各指揮者。現在、関定子氏に師事。



松村彩容子
語り手

名古屋音楽大学声楽科卒業。毎日新聞第34回全日本学生音楽コンクール東海大会声楽部門において優勝。同コンクール全日本大会において入賞。1989年5月~1994年12月、自己研鑽のためイタリア・ミラノに留学。ヴィオッティ音楽院、ミラノ音楽院にて研鑽を積む。フランス・パリにてフランス革命200年祭を記念してのフランス国営ラジオ放送に出演など数多くのコンサートに出演。帰国後、ソロリサイタルを2回行う。名古屋二期会ニューイヤー・オペラコンサート出演。1997年9月、東京にてオペレッタ「こうもり」オルロフスキー役で好評を博す。1998年8月、熊本にてオペレッタ「人魚姫」に出演するなど全国各地で数々のコンサートに出演。

4公演とも



水谷 和樹
神官児玉

名古屋大学卒業。在学中より声楽を広江吉信氏に師事。名古屋二期会会員。

出演した主な公演は、名古屋二期会公演「魔笛」「フィガロの結婚」「ボエーム」「ピーター・グライムズ」「浅茅ヶ宿」愛知県芸術劇場オペラ教室「魔弾の射手」「愛の妙薬」「夕鶴」「後宮からの逃走」「セビリアの理髪師」仙台フィルハーモニー管弦楽団定期演奏会「トスカ」「ボエーム」



佐藤 秀和
村 長

名古屋芸術大学音楽教育科卒。声楽を洞谷吉男氏に師事。作・編曲を藤田玄播、浦田健次郎、林雅彦各氏に、指揮法を古谷誠一氏に師事。名古屋オペラグループ会員。これまでに合唱団コーロ・アモーレ、豊田第九合唱団等を指揮、指導。名古屋二期会のオペラでは今年1月の「天国と地獄」でマルス役に出演。

現在、愛知県立海南高等学校音楽科教諭。

名古屋二期会公演予定

●●●ニューイヤール・オペラコンサート●●●

1999年1月9日(土) (愛知県芸術劇場 コンサートホール)

●●●研究生卒業公演・オペラ「フィガロの結婚」●●●

1999年4月4日(日) (名古屋市芸術創造センター)

●●●イタリア・日本歌曲の夕べ●●●

1999年5月13日(木)・14日(金) (電気文化会館 ザ・コンサートホール)

●●●フレッシュ・コンサート No.19●●●

1999年6月3日(木)・4日(金) (電気文化会館 ザ・コンサートホール)

●●●オペラ「魔笛」●●●

指揮 フォルカー・レニック 演出 松本重孝

1999年9月18日(土)・19日(日) (愛知県芸術劇場大ホール)

●お問い合わせ：名古屋二期会 TEL<052>752-2505 FAX<052>752-2506

名古屋市芸術祭'98主催事業
名古屋二期会オペラ定期公演

室内オペラ

浅茅ヶ宿

雨月物語より

原作 上田秋成「雨月物語」
台本 増本伎共子
(円地文子=歌舞伎用台本より)
作曲 増本伎共子

指揮 黒岩英臣
演出 観世栄夫

日時：11月17日(火) 18:00開場 18:30開演
18日(水) 18:00開場 18:30開演
19日(木) 13:30開場 14:00開演
18:00開場 18:30開演

会場：名古屋能楽堂 (名城)

料金：〈前売り〉6,000円
〈当日〉6,000円 全席自由席

総監督	牧 定忠
演出助手	藤田六郎 兵衛 池山 奈都子
舞台監督	太田 けんじ
照明	石原 福雄
音響	山田 真久
衣裳	坂 治栄
副指揮	山田 信芳 吉川 朗 河津 政實
練習ピアノ	水野 みか 西尾 由希

お問い合わせ
名古屋二期会
TEL (052) 752-2505 FAX (052) 752-2506

主催
名古屋市芸術祭実行委員会、
名古屋市、名古屋市教育委員会、
(財)名古屋市文化振興事業団、
名古屋二期会